

# 厚生病院の最近の取り組み (平成27年度を中心に)

## 病病連携、病診連携強化に向けた取り組み

### 1 地域連携

### 2 医療改革

### 3 がん医療

### 4 療育連携

▶ 中部地区における病院間や病診間の連携が十分とは言えない状況にあって、平成26年度下期に、新たな取り組みとして、病院長、副院長が先頭になって中部地区の病院・診療所訪問を実施し、厚生病院の診療機能等の発信、要望の聴取、意見交換を実施した。

引き続き平成27年度も上期から病院・診療所訪問（7病院・63診療所）を実施した。平成28年度も現在実施中であり、今後も継続していきたい。

# 病病連携、病診連携強化に向けた取り組み

## 1 地域連携

### 〈紹介・逆紹介患者数の推移〉

## 2 医療改革

## 3 がん医療

## 4 療育連携

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
紹介患者数	4,883人	4,916人 (+0.7%)	5,539人 (+12.7%)
逆紹介患者数	5,415人	5,316人 (▲1.8%)	5,820人 (+9.5%)



# 2025年に向けての医療提供体制 整備への対応



1 地域連携

2 医療改革

3 がん医療

4 療育連携

▶ 団塊世代が後期高齢者となる2025年を見据えた中部地区の医療提供体制整備、地域包括ケアシステム構築への対応として、平成27年度の病床機能報告において病床区分の見直しを行い、平成28年4月から1病棟を7対1一般病棟から地域包括ケア病棟に転換した。

## 〈地域包括ケア病棟〉

運用開始 平成28年4月1日

病床数 7階病棟43床

運用方法 様々な理由により急性期の病態は脱したが他の医療機関等への転退院が容易ではない厚生病院の長期入院患者の受け皿病棟として運用し、充実したリハビリテーションの提供、在宅復帰支援機能の強化を図っている。

病床利用率 平成28年4月 90.5%

平成28年5月 90.0%

平成28年6月 87.8%

# 2025年に向けての医療提供体制 整備への対応

1 地域連携

2 医療改革

3 がん医療

4 療育連携

▶ 病院完結型から地域包括ケアシステムへの転換のためには病院側の退院支援・退院調整、在宅等への療養移行支援が重要であり、病院看護師の研修、在宅医療との連携強化を目的とし、平成27年3月から新たに次の取り組みを実施している。

- 訪問看護ステーションとの連携により、病棟の看護師が訪問看護師と同行し退院患者宅を訪問  
平成27年度 9回
- 看護師のデイサービス・デイケア施設研修  
平成27年度 7回
- 褥瘡等の処置に係る認定看護師を院外の病院、診療所、在宅へ派遣  
平成27年度 8回

# がん医療の取り組み

1 地域連携

2 医療改革

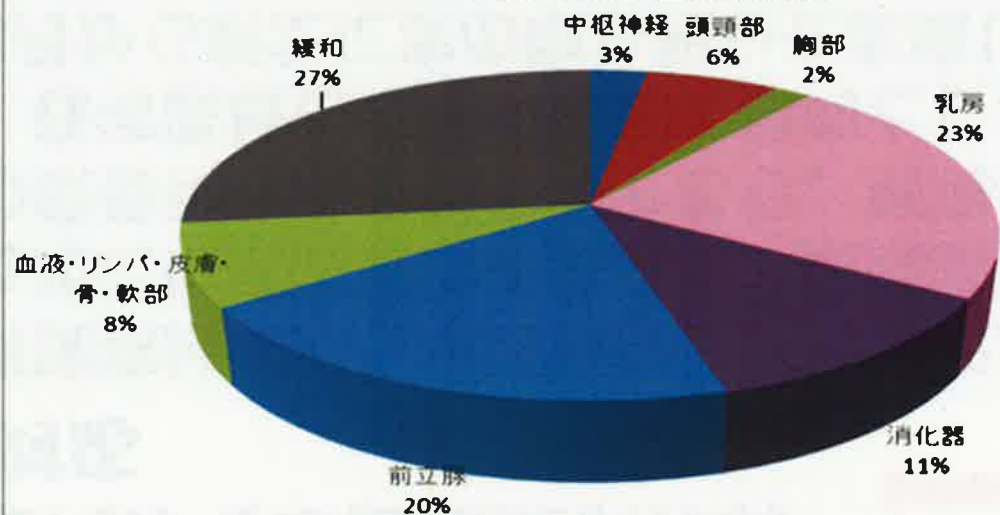
3 がん医療

4 療育連携

▶ 平成27年度から30年度まで地域がん診療連携拠点病院の更新認定を取得したところであり、中部地区で唯一放射線治療が可能な施設として、5大がんは中部完結を目指し、その集学的治療に取り組んでいる。

▶ 放射線治療分野では、平成25年度から高エネルギー装置に更新したことにより、旧装置では治療ガイドラインに沿った治療を行うことができなかった前立腺がん、乳がんの構成割合が高まっており、中部地区の診療機能の向上に大いに貢献している。

2015年治療部位別集計



# がん医療の取り組み

1 地域連携

2 医療改革

3 **がん医療**

4 療育連携

▶ 手術分野では主要5大がん（肺がん、胃がん、大腸がん、肝がん、乳がん）を中心に胸腔鏡下、腹腔鏡下等の侵襲の少ない高度な治療が可能であり、平成28年4月から常勤麻酔医を1名増員し体制を強化している。  
特に肺がんの手術件数は、大学病院を除けば県内第1位である。

5大がんの手術実績

(単位：件)

	肺	胃	大腸	肝	乳
鳥大附属	155	53	40	—	50
県立中央	74	38	44	23	24
鳥取市立	42	39	24	11	11
鳥取日赤	—	41	36	—	39
県立厚生	81	43	39	—	23
山陰労災	—	56	50	—	—
米子医療	43	21	34	—	23

出典：週刊ダイヤモンド「全国病院ランキング」（厚労省公開DPCデータに基づく）

件数：平成26年度の年間手術件数（—は件数が10件未満のため非公開）



# 中部の療育体制支援



1 地域連携

2 医療改革

3 がん医療

4 療育連携

▶ 近年、脳神経小児科分野では、増加する小児の発達障がい、重症心身障がい等への対応が要求され、小児科診療の中でも、重要な位置を占めるようになってきている。

また、療育機関と脳神経小児科診療の連携が強く要求されているため、平成27年度から新たに脳神経小児科部長を配置し、中部地区の療育機関等への支援を強化している。

- 中部療育園の通園・外来診療への医師派遣を拡充
- 皆成学園児童発達支援事業への医師派遣（保護者ピアカウンセリング及びスタッフミーティングにおける指導者）
- 発達障がい診療協力医研修事業の研修医師受け入れ（年間2名）





ご清聴ありがとうございました。

